

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人鳥取大学

1 全体評価

鳥取大学は、理論の修得と実践により問題解決と知的創造を行う「知と実践の融合」を基本の理念として、全学を挙げた学際的取組により教育、研究、社会貢献を進め、活力を持った持続的な地域の創生に努めるとともに、環境科学、ライフサイエンス等の特色ある分野において研究拠点の形成を進め、持続的な世界の構築に貢献する大学を目指している。第3期中期目標期間においては、1) 社会の中核となり得る教養豊かな人材の育成、2) 地球規模及び社会的課題の解決に向けた先端的研究の推進、3) 国際・地域社会への貢献及び地域との融合を目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、特色あるリカレント教育を実施するとともに、大学情報の発信に関する取組を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 乾燥地研究センターでは、「スーダンおよびサブサハラアフリカの乾燥・高温農業生態系において持続的にコムギを生産するための革新的な気候変動耐性技術の開発」プロジェクトにおいて、スーダン国の危険レベル上昇により、日本に関係者を招聘してキックオフミーティングを開催して、現地品種の評価と交配準備を開始しており、同プロジェクトの所属教員が参画する国際共同研究チームが国際共著論文を学術雑誌Nature Plantsに発表し、高く評価(被引用数Top 1%)されているほか、現地イノベーションプラットフォーム設置準備を開始するなど国際共同研究を推進している。(ユニット「乾燥地科学分野における国際的研究教育拠点の強化」に関する取組)
- 医工農連携の研究プロジェクトでは、「内視鏡用シミュレータロボットの開発」について、戦略的基盤技術高度化支援事業の補助金を活用して医学部と工学部の教員が連携して研究開発を進め、その結果、内視鏡画像を用いた内視鏡動作の支援を可能とする技術に関する特許出願(特願2019-172325、特願2019-172326)に至っている。(ユニット「医工農連携による異分野研究プロジェクトの推進」に関する取組)

2 項目別評価

<評価結果の概況>

| | 特 筆 | 一定の 注目事項 | 順 調 | おおむね 順調 | 遅れ | 重大な 改善事項 |
|-------------------|-----|-------------|-----|------------|----|-------------|
| (1) 業務運営の改善及び効率化 | | | ○ | | | |
| (2) 財務内容の改善 | | | ○ | | | |
| (3) 自己点検・評価及び情報提供 | | | ○ | | | |
| (4) その他業務運営 | | | ○ | | | |

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載5事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 大学情報の発信に関する取組

SDGsにつながる大学の教育・研究・社会貢献等の取組を155件取りまとめ、その内容を大学公式Webサイト及び日本海新聞紙面に掲載し、大学の研究成果等を広く社会に情報発信している。附属病院では、「誰が読んでも面白い」冊子を目指し、スーパーバイザーにテレビチーフプロデューサー、編集長にノンフィクション作家その他各分野で活躍する多様な人材を集め、編集チームを結成し制作にあたり、広報誌「カニジル」を創刊しており、カバーストーリー「鳥大の人々」、特集「医療の世界をいかに知る」など、大学病院の人々、医療について多角的にフォーカスをあて、丁寧に切り取っていくことで、病院の新しい魅力を発信している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載14事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ J-クレジット制度を活用した取組

省エネルギー化を推進する施設整備実施のための財源として、ESCO 事業において得られた CO₂ 排出削減量をクレジット化する J-クレジット制度から得られた新たな財源(約 1,572 万円)を活用し、更なる省エネルギー化を推進する施設整備「(三浦)農学部 1 号館空調設備(GHP-46)改修工事、(医)臨床講義棟他照明設備改修工事」を実施している。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 特色あるリカレント教育の実施

鳥取銀行、鳥取大学振興協力会と連携して地域ニーズに即した新たなリカレント教育プログラムを開発し、多様な人材が交流しながら学べるイノベーション人材育成のための「ゼロイチ・アクセラレーション・プログラム」を実施している。本プログラムは、0を1にできる「ゼロイチ人材」に必要な、社会や経済に変革を与え、挑戦するマインドセットや思考・行動のフレームワークを実践的に学ぶ一連のプログラムであり、109名が参加している。

附属病院関係

【医学部附属病院】

(教育・研究面)

○ 医工農連携による医療機器等開発

「内視鏡用シミュレータロボットの開発」において、戦略的基盤技術高度化支援事業の補助金を活用して医学部と工学部の教員が連携して研究開発を進めることにより、内視鏡画像を用いた内視鏡動作の支援を可能とする技術に関する特許出願（特願2019-172325、特願2019-172326）に至るなど、医工農連携による医療機器等開発を推進している。

(診療面)

○ 診療受付・呼び出しアプリの開発による患者サービスの改善

令和元年9月25日から全診療科で運用開始した、独自開発の診療受付・呼び出しアプリ「とりりんりん」は、病院から半径500m以内であれば、再来患者は再来受付機を通ることなくアプリでの受付が可能で、診察時間が近づくと通知が届くため、待ち時間の有効活用、患者の負担軽減につながるなど、患者サービスの改善に取り組んでいる。

(運営面)

○ 医療情報の共有化を通じた地域との医療連携推進

「鳥取県医療連携ネットワークシステム(おしどりネット3)」の利用者拡大を図るとともに、登録患者数は令和2年3月末現在で合計6,701名、対前年度比1,923名増と急速な伸びを示すなど、地域連携強化に向けて取組を進めている。